№002
2016.10.7

「仙堀（せんぼり）」整備計画について

「仙台堀川公園を考える会」江東区北砂 6-27-14 E-mail:info@senbori.com

来春着工予定の「仙台堀川公園整備計画」への区の意見募集を前号でお知らせしました。今回はその続きです。

私たちは、2010 年に名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）に江東区と参加した生物多様性チーム江東をはじめ、ネイチャーリーダー、エコリーダー、江東区 CIG サポート会議など、これまで、そして現在も江東区の事業に関わり、より良い江東区を目指してきた団体・個人を主体としています。しかし、今回の整備計画はさまざまな点で問題が多いことから、その改善を求めています。ぜひ、ご理解とご協力をお願いいたします。

仙台堀川公園近隣住民有志、生物多様性チーム江東、NPO 法人ネイチャーリーダー江東、NPO 法人マザーツリー自然学校、こうとうビオネットワーク、NPO 法人 Green Works

多くの方が意見・要望を提出し、回答をいただきましたが、仙台堀川をなくすこと（暗渠化）と、公園を削り道路にし、多くの木を切ってしまうことなどの見直しはなく残念です。

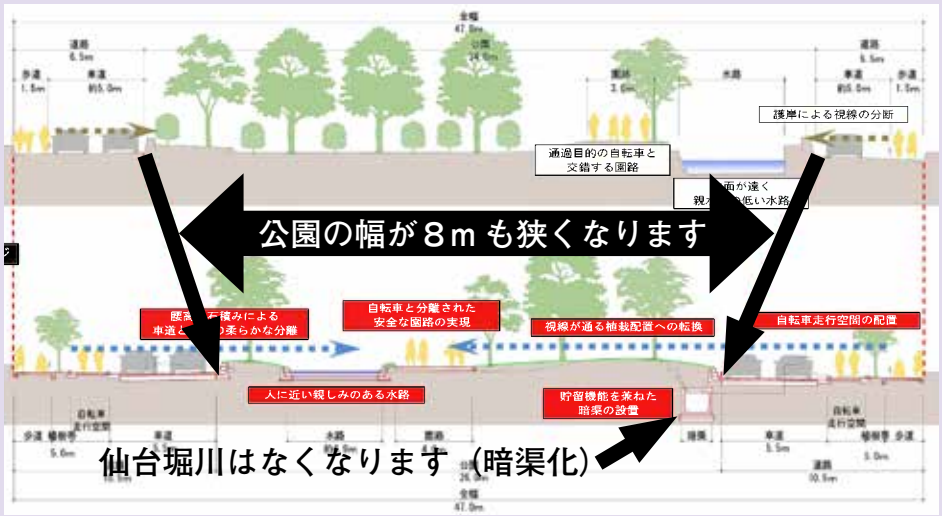
一度なくなると取り戻せないことばかりで、計画を見直し、「より良い仙台堀川公園」を改めて考える必要があります。

いろいろな意見があると思いますが、この貴重な公園を将来に残し、より良くしていこうとする署名にご協力ください。

●仙台堀川がなくなり、歴史遺産を失い、魚もカモもいなくなります。

仙台堀川は埋められ、深さ 30cm のポンプを使った水路になります。ただ水が流れ、浅く入れることだけが親水性ではなく、歴史遺産であり、生きものが棲む生命感がある流れこそ「仙堀」の魅力です。

現在も一部で水辺に親しめる構造になっており、柵を開けるだけですぐに改善できます。



上の現在の公園から下の整備計画による公園に変わると、仙台堀川がなくなり浅い水路になってしまい、公園は緑道のよう細くなってしまうほか、新たに植えられる樹木は図と違い小さくなります。

■公園は幅８ｍ狭く、公園は約 1ha も小さくなり、憩いや散歩がしにくくなります。

道路拡張で公園幅は 8m 減少。園路も１ｍ広くなり、延長 1.1km の対象地域で 9,900㎡の憩える空間がなくなります。園路の拡大はわかりますが、道路拡幅の必然性はありません。

♠子どもたちが自然に親しめなくなります。

30 年以上をかけて豊かになった環境・・・

区で唯一 絶滅危惧種のタカ“ツミ”が営巣していたマツも伐採されます。

計画では地域にここだけにしかない子どもたちが親しみ、学習の場にもなっている生きもののいる環境がなくなります。

公園はたくさんあっても、生きものがいる公園は限られ、休日には遠方から訪れる家族も多くいます。

■歩行者と自転車の安全は他の方法でも解決できます。

歩行者と自転車の安全確保が計画の課題になっていますが、これは仙台堀川公園の他の場所と同じ方法でも解決できます。

逆に旧護岸がなくなり、スピードが出やすくなった拡幅道路が公園のすぐ脇となり危険です。

仙台堀川公園の他の場所では歩行者と自転車のゾーン分けが行われています。

❤ 40 億円はもっと活用できます。

事業費は 40 億円です。計画の課題は、通常の維持管理の中でも解決でき、事業費はマラソンコースやホタルの棲む場所にするなど、もっと有効な活用が考えられます。

仙台堀川公園は地下道による連続性が他に多く見られ㊧、釣魚場裏の空地㊨を利用すれば、清洲橋通りも安全に横断できるなど、改修工事に相応しい使い方があります。

◆木が切られ、緑陰や視線の緩和もなくなります。

30 年以上にわたって維持管理され、大木となった多くの木が伐採されます。

新たに植えた木では日陰や向かい合う住宅など生活上の視線緩和が確保できません。

本来は改修計画で、健全な既存樹木は残すのが普通です。

緑陰つくる大木ですが、ここに写る樹木はすべて伐採されます㊧。ずっと続くみどり㊨。片側だけで 4 m削減のためこれらもすべてなくなります。計画で道路に植栽帯を設けてもここまでのみどりは確保できません。夏の直射日光を受ける路面は 60 度を超え、緑陰がなくなると公園も特に犬の散歩やお年寄り、子どもたちが憩う場所として適さなくなります。

ホームページを開設しました。制作途中ですが、仙台堀川公園の素晴らしさと、計画の問題点、改善点などを関連資料を揃えて紹介しています。ぜひ、ご覧ください。→ http://www.senbori.com/xoops